

## 定例活動〔第1回雑木林塾〕／7月22日(土) 「森の安全と応急手当救急講習会」

真弓 浩二・大館 学

7月の定例活動は、今年度オアシスの森くらぶが主催する「雑木林塾」の第1回目となる「森の安全と応急手当救急講習会」が、午前中の座学と午後のフィールド実習といった構成で開催されました。

講師には名古屋市消防局応急手当普及員で、日本自然保護協会・日本野鳥の会会員でもある徳田祐一さんをお迎えし、救急活動のみならず自然環境の保全活動などの豊富な経験に基づいた数々のお話によって、私たちの普段の活動に直結する実践的な講習会となりました。

20名の受講者が集まった午前中の山根コミセンでの座学では、

- 危険を予知し回避する責任はボランティア活動でも問われること。
- フィールド選定の注意義務、フィールドの事前調査義務、参加者やスタッフへの注意監督義務、非常事態での危機回避と救急体制の義務が求められること。
- 安全管理には予知と予測が重要で、予想や予言は使えないこと。
- 安全管理には、自然的要素、装備的

要素、身体的要素、精神的要素、計画的要素の5つの要素への注意が必要であること。

- 森の活動に必要な装備として、水(虫さされや傷口洗浄)・バンダナ(怪我の手当て)・レジ袋(血液に直接触れない)の携帯が緊急事態に有効であること。
  - 緊急事態の現場では簡単に思われる119番通報がなかなかできないということ。
  - 子どもの怪我などは、小さなものでも必ず主催者から直接保護者に伝えておくことが重要であること。
- …など、私たちの現場活動で即役立つ有益なお話をたくさん伺うことができました。



▲午前の座学の様子(山根コミセンにて)



▲午後のフィールド実習の様子

午後は集いの広場に場所を移して実地での研修となりました。

まず最初に119番をかけるとき森の中の場所をわかってもらうことの大切さについて説明があり、救急の人を森の中に案内する森の外の目印や誘導、人がいないときは森の外まで被災者を運ぶ技術が必要なことを教わった上で、実地研修に入りました。

特に被災者を運ぶ技術のいろいろを学びました。一人で担ぐのはなかなか大変で、2人で両脇から支えて運んだり、森から切り出した竹とブルーシートで簡易担架を作って実際に人を乗せてみたり、みんなでかわるがわる体験をしました。

例年この時期の森は蚊が多いので、森での活動は避けていたのですが、案の定たくさん刺されて、蚊取り線香とかゆみ止めが大活躍の研修でした。

## 特別活動／7月1日(土)・15日(土) 「トライアルサタデー 子ども自然体験クラブ」

阿部 龍雄

7月1日(土)と15日(土)の2日間にわたり名古屋市天白生涯学習センター主催講座の<トライアルサタデー>子ども自然体験クラブが相生山緑地で開催されました。この講座にわがクラブは、講師として阿部、大館、真弓等が参加し、指導・解説を行いました。

この講座は天白区内の自然について学ぶとともに「自然を楽しみながら大切に作る」活動をしている人達と自然体験をすることを目的としています。

1日目は、参加者が子ども中心に22名で、(トンボのための環境・ヤゴの観察をしよう)をテーマに、トンボ池

周辺で観察や採集を行いました。トンボはシオカラトンボ、オオシオカラトンボの成虫、ヤゴ等が観察できました。

2日目は、参加者が32人で(セミの寿命・セミの抜け殻を探そう)をテーマに山根口、菅田口を中心に、観察・採集行いました。当日は残念ながらセミは鳴いておらず発見できませんでしたが、コナラ、アベマキの樹液がでていところ、クワガタやカナブンの観察を行いました。

2回の講座とも10:00~12:00の2時間の活動でしたが、参加した子どもたちは、日頃見なれない昆虫に出会う



▲タモと虫かごを手に、昆虫採集に向かう子どもたち

たびに歓声があがっていました。また鋭い質問が多く講師も大慌てで答えていました。

最後に、この講座は参加した子ども達や、指導したわたし達にも大変有意義なものでした、来年も開催されるとよいと思います。